

せたがやプラネタリウム 天文講座

ほうき星のふしぎ・流れ星のひみつ

© 長山省吾

© 及川聖彦

「ほうき星（彗星）」と「流れ星（流星）」は、全く別の天文（天体）現象なのですが、よく混同されて間違われてしまいます。ただ、「事前の予想が難しくて研究者泣かせである」という面ではとても似通っていたりもします。期待されたほうき星が明るくならなかったり、流星群が予報よりも流れなかったり…。

流れ星の起源の多くはほうき星に由来しており、そこには深い関わりが存在します。ほうき星と流れ星の関わりに触れながら、それぞれの正体について解説し、研究者の立場から「なぜ事前の予想が難しいのか」という面にも踏み込んで説明します。

講師 さとう みきや 佐藤 幹哉 氏（国立天文台 天文情報センター）



高校3年の秋、10月りゅう座流星群（ジャコビニ流星群）が予想以上に流れているのを目撃して、流星予報の難しさと興味深さに目覚める。その後本職の傍ら、本格的に流星群の予報研究に取り組み、世界各地で遠征観測を実施、自分の予報研究を確かめる。

現在は国立天文台で広報普及員として勤務し、2024年に明るくなった「紫金山・アトラス彗星」の情報発信も務めた。2017～2019年にはせたがやプラネタリウムに勤務し、解説などの職務も行った。

日時 2025年3月8日（土） 午後6時30分～7時30分

定員 140名

料金 おとな（高校生以上）：400円 こども（中学生以下）：無料

※小学生以下の方は、保護者同伴でお越しください。

※券売機でチケットをお求めください。（当日午前9時から販売します。）

※投影開始後の入退場は、お断りしております。

お問い合わせ：世田谷区立中央図書館プラネタリウム 世田谷区弦巻3-16-8 TEL/FAX. 03-3429-0780